



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第4号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

### 【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:聖書は神により靈感されている
- ◎聖書と文学:トルストイ「愛あるところに神あり」(靴屋のマルチン)
- ◎聖書と預言:聖書の未来の預言は成就する
- ◎箴言から学ぼう!:心を守る
- ◎聖書の視点から「死後」について考える:この世のすべてを得たとしても・・・
- ◎キリストを信じた体験談:生ける水
- ◎聖書に関する偉人のことば:ゲーテ
- ◎ご案内

### <聖書からのメッセージ >

#### 聖書は神により靈感されている

##### 〔聖書箇所〕Ⅱ テモテ3:16

**3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。**

本日は「聖書は神により靈感されている」として、聖書の特殊性を見ていきたいと思えます。私はもう聖書を読み始めて40年以上、そして、聖書の通読回数も数十回を超えます。しかし読めば読むほど、痛感するのは聖書の特殊性、神によって書かれたとしか思えない聖書という本の不思議さです。

聖書の特殊性、それは私自身の個人的な感想というのではなく、じつは聖書自ら、この聖書は神により、靈感されている特殊な本であることを述べます。

冒頭の聖書箇所です。靈感とはあまり聞かないことばですが、原語の意味合いはこの厚い聖書の全てのページ、全てのことばに神の霊が吹き込まれている、神の編集と監督の下にある、そんなニュアンスがあります。

キリスト教には長い歴史があり、その中で多くの人が色々な本を書いています。そのような表現、「神により靈感された」などと言われている本は、長い教会史の中でも聖書だけなのです。同じキリスト教の看板を表明してもローマ法王やマザー・テレサ、ものみの塔の書くものなど大いに間違えがあります。しかしそれらと異なり、いわば神ご自身が神が著者である、と唯一認めている本、それが聖書である、そのようなことが言えるのです。

そして、そのような本であるがゆえに、神は聖書で語られているご自分のことばに責任を持ち、一度語られたことばを守る、そのことに大

# 聖書は神により靈感されている

いに力を入れている、そのような面があります。

人のことばでも誠実な人は自分の言ったことばを守ろうとするものです。逆に嘘ばかり言う人は信用されません。オオカミ少年みたいなものです。神はオオカミ少年のような方ではなく、逆にご自分の語ったことばに責任を持つお方です。聖書は厚い本であり、多くの神のことばが書かれています。神はそのどのことばもたがえず、誠実に守ろうとされる方なのです。聖書はそのような事例に満ちています。

例を見てみましょう。聖書の中で、もっとも有名な人物はイエス・キリストです。そのイエス・キリストの来臨や生涯に関して、聖書はいくつもの預言、300以上の預言を前もってしていました。それらの全てはキリスト生誕前に成立した旧約聖書に書かれており、我々は今でもそれらを参照し、確認することが出来ます。そしてそれらの預言は皆成就しました。たとえばキリストの生誕の場所に関して以下のように旧約聖書のミカ書に預言されていました。

## 〔聖書箇所〕ミカ書5:2

**5:2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。**

このように預言者ミカはキリストの生誕の地はベツレヘムであることを紀元前8世紀、キリスト生誕の700年も前に預言していたのです。さて、このことばを神は守られたのでしょうか？それとも守ることができなかったのでしょうか？結果として神はそのことば、イスラエルの支配者をベツレヘムで生まれさせるとのことばを守り、成就しました。以下のルカの福音書の記述通りです。

## 〔聖書箇所〕ルカの福音書2:1,3-7

**2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。**  
**2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。**  
**2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、**

**2:5 身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。**

**2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、**

**2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。**

このことばからわかるように、イエスの両親はもともと、ガリラヤの町ナザレに住んでいました。この町でキリストが誕生するなどとは聖書は預言していません。しかも身重の妻を抱えた、普通では旅行もしづらい状況です。しかし不思議にも待たなしの命令が当時世界を支配していたローマ皇帝から出たのです。そしてその命令に従って、彼らが住民登録へ故郷のベツレヘムへ行ったその旅の宿、正確には馬小屋でイエス・キリストは生まれたのです。まるで小説のストーリーみたいですが、しかしこの時、「支配者、キリストはベツレヘムで生まれる」との預言、ミカを通して語られた聖書の預言はみごとに成就したのです。聖書の全てのことばが神によって靈感されている、という時、このような意味合いであることを理解してください。たとえ700年のタイムラグがあっても、神はかつてご自分が（預言者を通して）語られたことばを守る、また、両親が遠いナザレに住んでいる、という状況でも、不思議と事は進み、神のことばは正確に成就した、このことを知ってください。これは一例であり、一つのことばに関する事に過ぎませんが、このようにして神は聖書で語られた全てのことばに責任を持つ方である、このことを知ってください。



ベツレヘムでのキリストの誕生

## 聖書と文学:トルストイ「愛あるところに神あり」(靴屋のマルチン)

19世紀ロシアが生んだ文豪トルストイは、世界的に有名な作家です。作家生活の後半、自殺の念につかれた彼を救ったのは、「聖書の神への信仰」でした。それゆえ彼はその後年、いつもの民話を通して聖書の教えを分かりやすく、民衆に伝えるようになったのです。冒頭の「愛あるところに神あり」(靴屋のマルチンの話)もそのような民話の一つです。

少し内容を見てみましょう。妻や息子に先立たれ、やけになっていた靴屋のマルチンは知人に諭され、聖書の福音書を読むようになりました。そのような日々が続くある晩、彼は「明日お前の家を訪ねるから」というキリストの声を聞いたのでした。次の日、仕事をしながらも期待を持ってキリストの来訪を待っていた彼ですが、キリストは来られず、代わりに雪かきの老人の姿が彼の目に入ります。

「もし、彼がキリストだったら、どうするだろう？」そう考えたマルチンは、雪かきの老人に熱いお茶を施し、労をいたわったのです。

さて、今度こそキリストが来られると思って待っていたマルチンの目に、次は凍えている若い母親の姿が目に入りました。もう気候も寒くなっているというのに薄い夏服で凍えている母親と赤ん坊の姿が見えたのです。急いで暖かい仕事部屋に招き入れて聞くと、女は従軍している兵士の妻で、仕事もなく、食べるものもないことが分かったのです。「もし、この人がキリストだったら？」と思った彼はその母親に、暖かい服を買うためのお金を差し出したのでした。

さて、「いつ救い主は来られるのか？」と思っていた彼の目の前で、次にリンゴ売りの老婆とそれを盗もうとして捕まった少年とのいさかいが目にとまりました。マルチンは、その少年をとりなし、その少年が盗ろうとしたリンゴの代金を代わりに払うことを提案したのでした。

さて、そのようにして一日も終わりつつあり、もう街灯がつく時刻になりました。部屋に戻ったマルチンは突然そこに誰かがいる気配に気付きました。

その気配、聞こえてくるその声は、キリストの

声でした。最初の雪かきの老人、「あれは私だったのだ」とキリストは言われました。次の若い母親、「あれも私だったのだ」とキリストは言われたのです。次の老婆と少年、「あれも私だったのだ」と言われたのです。キリストに接するように、弱い人に接する時、じつは私たちは救い主に会っている、このことをマルチンは悟ったのでした。

聖書には以下のように、「**私のもっとも小さな者の一人にしたこと、それは、私にしたことだ**」とのキリストのことばが書かれています。この民話はそのような聖書の教えを分かりやすく伝える話となっています。

### 【聖書箇所】マタイの福音書 25:34-40

25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』

25:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。』

25:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊らせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。』

25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』



靴屋のマルチン

# 聖書と預言:聖書の未来の預言は成就する

今まで聖書の記述には科学的な矛盾がないこと、さらに聖書の歴史的な記述は考古学やら、当時の歴史家から証明された史実であることを見てきました。今回はさらに、聖書が未来を語り、しかもその預言を正確に成就する本であることを見ていきたいと思います。

聖書は端的に言えば、神ご自身が作者である本なのです。そしてそうであるがゆえに、人が書いた本と異なる驚くべき特徴がいくつかあります。その中でももっとも驚くべき特徴は、聖書が未来を語り、しかもそれを正確に成就する本であるということです。あまり日本では知られていないことなのですが、聖書には数千もの預言が語られています。そしてその多くは既に成就しています。まだ、(その時ではないので)成就していない預言もありますが、外れた預言は皆無なのです。いきなりこう言われてもあまりピンと来ないかもしれませんが、例を見てみましょう。

## 「エルサレム崩壊の預言」

キリストは当時の都、エルサレムに関して、このように述べました。

### [聖書箇所]ルカの福音書 19:41-44

19:41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、  
19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。  
19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、  
19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

キリストの言う「神の訪れの時」とは、神がその子であるキリストを遣わしたその時のことです。神はそのイエスを通して、神との平和、神との争い状態を解消し、和解すべく語ったのですが、その時をこのエルサレムの都、さらにそこに住む人々は知らなかったということです。逆にこの時、エルサレムの人々はこぞって、イ

エスを異端呼ばわり、罪人呼ばわりし、狂ったように、キリストを十字架に付け、殺害してしまいました。それは西暦30年頃のことです。それから40年後の西暦70年にこの都の崩壊に関して預言したイエスのことばは成就し、ローマ軍により、エルサレムの都は包囲されるようになります。

そしてこのイエスのことば通り、エルサレムでは、「敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ」ということが成就し、また、「そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日」がやってきました。エルサレムの都はローマにより、徹底的に破壊されたのです。そしてなぜ、そのような災いが、エルサレムに臨んだのかもこの時のキリストのことばを通して分かります。それは神が和解の使者として遣わしたキリストを捕らえ、十字架で殺害したエルサレムの人々に対する報復として、これらの破壊は行われたのです。

何はともあれ、このようにしてキリストが生前語られたエルサレムの崩壊の預言はその預言の時から40年後に正確に成就しました。それは歴史が証明していることです。驚くべき正確な成就です。しかし聖書はこのような預言に満ちています。そしてそれは、人間界の常識を超えています。我々普通の人間は40年後どころか、明日のことさえよく分からないからです。そのような意味合いで、聖書の大きな特徴は未来を預言する本だということです。

そしてこれは、仏典を始め、他の人間の書いた本にはない特徴です。聖書が神が著者である、唯一の本であることを如実に語る特徴なのです。



西暦70年のエルサレム崩壊

# 箴言から学ぼう！：心を守る

〔聖書箇所〕箴言 4:23

4:23 力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

ある時、こういうメッセージをある牧師さんから聞いたことがあります。「私たちはいかに感情をコントロールしていくか。特にクリスチャンは感情との戦いです」と。さらに「もし、心が壊れたらどうするか？人を憎んだり、苦い思いが心にある場合は、それを何とか取り去っていかなければいけません。たとえば家電製品が故障したら電器屋さんに修理をお願いしますよね？体調が悪くなったらお医者さんのところに行きますよね？それと同じように、私たちが心の病にかかったら、真っ先にイエスさまのところに行くのですよ。そしてそういう思いをイエスさまに取り除いていただくのです」と。このことばは、あながち嘘ではないなあと、思います。上記にも、「**あなたの心を見守れ**」とあるからです。ちなみに英語の聖書では「あなたの心を保ちなさい」と書かれています。「心を保つ」とはどういうこと？と思われるかもしれません。それはですね、心に悪い思いを持たない状態をキープしていくことです。さらにそのことを聖書流に言うなら、「平安」を保つことなのです。

ところでなぜ、「心」を見守らなければいけないのでしょうか？「いのちの泉」とありますが、悪い思いや感情に心が支配されていくときに、「いのち」（霊的な命、イエスさまの命）が途絶えてしまうからです。もし、内側に妬みや嫉み、怒りや憤りとか党派心（野心）や敵対心のように悪い思いで満ちていくときに、悪い霊（聖書：サタン、悪霊、悪魔）にコントロールされるようになってしまうのです。そしてそれは周囲の人たちにも次第に悪い影響を与えるようになっていきます。たとえば怒りっぽい人や短気な人と接触して、良い思いになりますか？一緒になって怒ったり、気短にはならなくても、気持ちが沈んでしまったり、落ち込んだりしますよね？少なくとも楽しくなったり、元気になったりはしませんよね？でも、反対に温和に接していただいたり、優しくしていただいたりしたらどうなるでしょうか？うれしくなったり、感謝の思いが湧いてきたりしませんでしょうか？それだけでなく、誰かにも同じように接していきたい！なんていう思いも込み上げてくるのではないのでしょうか？

以前、ある女性のクリスチャンがこういうことを話していました。「今は結婚して子どももいるから専業主婦をやっているけれど、OL時代は職場で結構大変な思いをしたことがあって。特に周囲の人たちが誰かの悪口を言っている時は本当に困っていた。でも、そのたびにイエスさまに、一緒になって人のことを悪く言うことがありませんように、また、そういうことをしている人たちのことを悪く思うことがありませんように、ってお祈りしていたの。そしてね、その都度神さまが心を守ってくれたの。罪を犯さずに済んでとても助かった」と言われていました。そのことを聞いて、心の思いが守られることはいかに大事なことなのか？ということをお教えされました。まさしく「**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ**」と言われている通りだなあと思いました。また、心が守られている、というときに、神さま（イエスさま）が共にいてくださるのです。神さまの霊で支配していただけるのです。そして身近な人たちや周囲の人々にも非常に良い影響を与えていくものとなります。しかし反対に悪い思いばかりに心が傾いていくときに、神さまの霊ではない、悪い霊にコントロールされてしまいますので、そんな時には、先ほどの牧師さんや女性のクリスチャンが言われていたように、ただちにイエスさまに助けを求めていきたいと思えます。イエスさまは私たちの心の奥底までご存知で、またそれだけでなく、私たちが求めていくのなら悪い思いや感情からも解放して下さいますので、信じて実践していきたいと思えます。ちなみに悪い霊、すなわちサタンは天国には決して入ることはありませんので、もし生涯にわたって悪い霊に支配され続けていくというときに、サタンと一緒に永遠のさばきの場所（火の池）に入ってしまう可能性がありますので、気を付けていきたいと思えます。色々なことはあるかもしれませんが、しかし同じ時間を過ごすのでしたらば、ぜひいつも心を見守って、良い思いや平安や喜びに満ちた日々を送ってきたいと思えます。



心を守る

# 聖書の視点から「死後」について考える:この世のすべてを得たとしても…

〔聖書箇所〕マタイの福音書 16:26

16:26 人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。

この世の価値観において「人生を謳歌する」なんてことが言われています。しかし、聖書はどちらかと言えば、「この世」ではなく、「後の世」に力点を置いています。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません」と言われている通りです。

「人は、たとえ全世界を手に入れても」とは、お金や財産、地位や名誉などのことを言われています。たしかにこの世において、これらのものは無いよりは有るに越したことがないのかもしれませんが、「手に入れても…」ということばに何か語りかけを感じませんか？このような表現から、そして聖書的な視点で言わせていただくのなら、それらのものがたとえ手に入ったとしても、所詮この世の生きている間のことだけに過ぎず、それらは人生が終わったと同時にすべてパーになってしまう、要は「一時的」だと言われているのではないのでしょうか？また、第三号で詩篇のことばを通して、私たちの人生は「早く過ぎ去る」とか「無いも同然」という風に学びをしましたように、色々なものを得たとしても、しかしそれは「一瞬」のことだということがお分かりになると思います。

さらに、「まことのいのち(KJV訳:たましい)を損じたら、何の得がありません」と言われています。「まことのいのち」とは、今私たちがまとっている「肉体のいのち」ではなく、「永遠のいのち」のことです。ですから「まことのいのちを損じる」とは、「永遠のいのちを失う」ということを言っているのです。ですからこのことばは、「永遠のいのちを失ったら、何の得があるのですか？」と私たちに問いかけているのです。

はたまたそのことに関連して、「そのいのち(KJV訳:たましい)を買い戻す(KJV訳:交換する)には、人はいったい何を差し出せばよいでしょう」ということまで言われています。このことばに関連して同じようなことが詩篇にも書かれているので、参考までに見てみましょう。

〔聖書箇所〕詩篇 49:8

49:8 たましいの贖いしろは、高価であり、永久にあきらめなくてはならない。

ここで、「たましいの贖いしろ(KJV訳:買い取り)は、高価」とあります。「たましいの贖いしろ」とは、イエス・キリストに私たちのたましいを贖って(KJV訳:買い取って)いただくこと、すなわち「救い」のことを指します。そして「救い」は、「高価」だと言われています。なぜ、「高価」なのか？と言うと、イエスさまが私たちの罪のために十字架にかかって死なれたほどのことだからです。続いて、「永久にあきらめ(KJV訳:やめる)なくてはならない」と書かれています。これは、もし地上において救われていないというときに、もはや後の世において「救い」を受けることができなくなる、ということを言われているのです。ですから「救い」というものを軽視してはならない、ということがお分かりになると思います。そういうわけで、もしも救われていないのであれば、救われていきたいと思えます。いくらこの世であらゆるものを手に入れて、幸いな生活を送っていたとしても、しかしイエス・キリストの救いを受け入れていない、というときに、「永久にあきらめなくてはならない」とありますように、「天国」に入れなくなってしまう可能性がありますので、気を付けていきたいと思えます。さいごにひとつ聖書のことばを読んで、終わりにしたいと思います。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 4:13,14

4:13 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう。」と言う人たち。

4:14 あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。



全世界を支配したアレクサンダー大王

# キリストを信じた体験談:生ける水

数年前に礼拝の中で男性のクリスチャン（キリスト教用語:兄弟）がキリストに出会ってからのご自分の体験談（キリスト教用語:証）を語っていました。以下は、男性が語られていたことです。

**クリスチャンになる以前の自分は、生きる気力を失っていた。お酒やたばこにもおぼれていた。車の運転も荒かった。でも、イエスさまに出会ってから、あらゆることが一変した。お酒やたばこもやめることができたし、運転も気を付けてするようになった。そして何よりも、聖霊（神さまの霊）の喜びに日々、満たされて生活できるようになった。今、自分の心の中は、聖書に書かれているように神さまからの「生ける水」が流れるようになっている。**

その兄弟は職場の同僚のクリスチャンから話を聞いて教会に行くようになったそうです。証を語ったのは教会に行き始めてしばらく経ってからのことでしたが、来たばかりの頃と比べて表情も別人のように変わっていました。こんなことを本人が聞いたら怒るかもしれませんが、はじめの頃は比較的うつむき加減な感じだったのですが、日に日にだんだんと表情が明るくなりました。

周囲の人たちにも兄弟の内側に神さまがおられるなあ、と感じるほどに変わってきました。兄弟が話していましたように、お酒もたばこもやめることができて、そのこ

とも喜んでいました。イエス・キリストを信じて受け入れて、洗礼を受けてからお酒はすぐにやめられたそうですが、しかし、たばこはすぐには決断できなかったそうです。でも、それから教会の聖歌隊に入って奉仕をすることになって、歌う際にたばこを吸っていたら声に影響するかもしれない、ということに気付いてやめることができたそうです。

兄弟の証は、聞いている他のクリスチャンにも大いに影響を与えたと思うのですが、改めてキリストの力はすごいなあ、あらゆるしがらみからも解放する力があり、その上生きる活力まで与えてくださるのだなあ、ということをしみじみ思わせられました。それでは、兄弟が証の中で語られていた聖書箇所を読んで終わりにしたいと思います。

**“わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。”**  
(新約聖書:ヨハネの福音書7章38節[新改訳聖書])



生ける水

# 聖書に関する偉人のことば:ゲーテのことば／お知らせコーナー

## <聖書と偉人>

### ゲーテ



私が獄につながれ、ただ一冊の本を持ち込むことを許されるとしたら、私は聖書を選ぶ。

## <お知らせコーナー>

### ●月刊バイブル無料プレゼント！（限定5名様）

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？もし興味があり、購読をご希望の方はお申し込みください。尚、期間限定サービスとして、申し込み順で5名様までに、本紙、送料共に「1年間無料！」で送付することになります。ご希望の方は以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へご連絡ください。先着5名様に郵送でお送りします。

「月刊バイブル無料サービスに申し込みます。」

住所:

名前:

### ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

### ●第38回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書など終末に関するトピックを解説するセミナーです。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第5会議室 (7F)

日時:2015年1月11日(日) 18:00-20:30

費用:入場無料、但しテキスト代1,000円(当日徴収)

定員:20名(先着申込順。満員次第締め切り)

主催:レムナントキリスト教会 (tel:042-364-2327)

申し込み:メールもしくはfaxで、「名前、住所」を記載の上、「セミナー参加希望」とお申し込みください。fax:020-4623-5255,mail:truth216@nifty.com